

メインテーマ

超高齢社会における高精度な歯科医療を目指して！

A チーム：歯内療法を極める！

講師陣 講演要旨

超高齢社会に対応する歯内療法の潮流

— 日常臨床にトレンドを活かす —

興地 隆史

健康寿命の延伸や QOL 向上に寄与する医療の重要性が高まる中、歯内療法による天然歯の保存は、この要請に応える中核の一つと言っても過言でない。一方、高齢者における残存歯数の増加は歯科界の金字塔ともいべき成果であるが、根管狭窄や医原性の根管形態変化など、複雑な状態の症例の増加につながるという側面には留意すべきである。さらに、高齢者では抜髄例の割合が低い傾向にあり、難症例の温床ともいべき再根管治療症例の割合が高いことが示唆される。すなわち、歯内療法は難症例対応へとシフトしている。

本講演ではこれらの背景を踏まえ、「超高齢社会への対応」を主軸として、根管形成、根管洗浄、歯髄保存療法を中心に、エビデンスに基づく最新の動向を日常臨床にいかに応用すべきかについて整理したい。

.....

超高齢社会における効率的、予知性の高い歯内療法の勘所

— 一般開業医が知っておきたい基本・戦略・撤退基準 —

木ノ本 喜史

超高齢社会において歯内療法の対象患者は多様化し、全身状態や残存歯質の制約を踏まえた臨床判断が求められている。一方で、若年者においても根管治療歯を長期にわたり機能させる視点が不可欠である。本講演では、日常臨床における歯内療法の予知性向上を目的に、隔壁の確保を含めた感染制御の基本、CBCT 時代における根管解剖の臨床的理解、失活歯の長期保存における課題とコロナルリーケージへの対応、さらにメンテナンスの意義について整理する。加えて、適応の見極めや撤退基準を含めた臨床戦略を提示し、一般開業医が実践すべき判断指針を解説する。

メインテーマ

超高齢社会における高精度な歯科医療を目指して！

B チーム：口腔機能低下症を知る！～オーラルフレイルから診えること～

講師陣 講演要旨

口腔機能検査結果を診療にどう活かすか

平野 浩彦

本研修会では、オーラルフレイルと口腔機能低下症を「オーラルフレイルに関する 3 学会合同ステートメント」で提示された概念で整理し、口腔機能検査結果を日常診療にどのように活用するかを考える。口腔機能低下症は、単なる検査項目の該当数ではなく、患者ごとの咀嚼、舌圧、舌口唇運動、咬合力などの低下パターンを踏まえ、生活課題や栄養状態も含め課題を検討することが重要である。本講演では、検査結果の解釈を中心に、歯科医師・歯科衛生士が外来診療で継続的に口腔機能管理を実践するための視点を提示する。

外来診療に口腔機能管理を定着させるために

上田 貴之

歯科外来では、う蝕や歯周病、義歯治療、口腔衛生管理など、さまざまな疾患・課題に対する継続的な対応が日常的に行われている。こうした診療の流れの中に口腔機能管理を無理なく組み込み、継続的に実践していくには、評価の視点や介入の手順を外来診療に即して整理することが重要である。本講演では、歯科医師・歯科衛生士が外来診療の中で口腔機能管理を管理の一つとして定着させるための具体的な進め方と実践の工夫について紹介する。